

## (4) 南 関 東



南関東地域では、景気は緩やかに持ち直している。

- ・ 鉱工業生産は緩やかに持ち直している。
- ・ 個人消費は持ち直している。
- ・ 雇用情勢は厳しい状況にあるものの、下げ止まりつつある。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(〃は上方に変更、〃は下方に変更)。

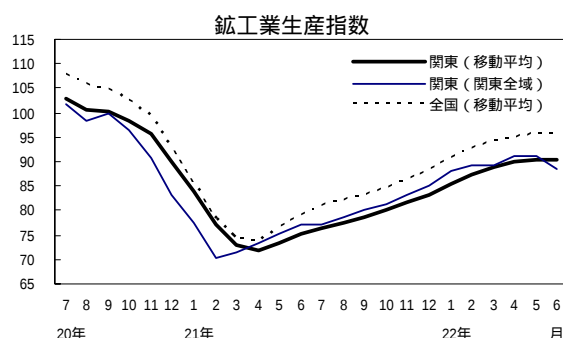
### 前回調査からの主要変更点

|       | 前回(平成22年5月) | 今回(平成22年8月) |   |
|-------|-------------|-------------|---|
| 景況判断  | 持ち直している     | 緩やかに持ち直している | ↓ |
| 鉱工業生産 | 持ち直している     | 緩やかに持ち直している | ↓ |
| 住宅建設  | 減少          | 増加          | ↑ |

### 1. 生産及び企業動向

#### (1) 鉱工業生産は緩やかに持ち直している。(関東全域)

輸送機械は、エコカー補助金等の政策効果が続いていることや輸出が好調に推移していることから、普通乗用車及び普通トラックなどで、増加している。化学は、ポリプロピレンやエチレンなどで、減少している。一般機械は、海外向けにフラットパネル・ディスプレイ製造装置及び半導体製造装置などで、増加している。電気機械は、一般用タービン発電機や電子顕微鏡などで、減少している。



(備考) 1. 17年=100、季節調整値。関東の最新月は速報値。  
2. 全国及び関東の太線は後方3か月移動平均。

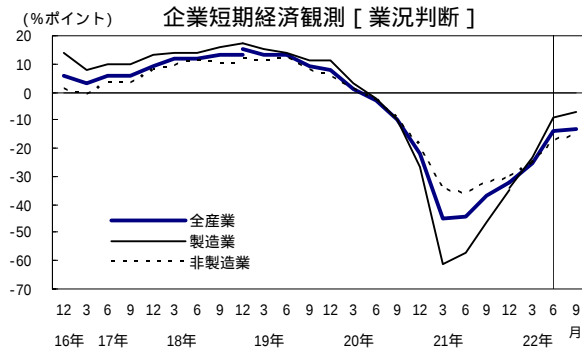
#### 域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

|         | 付加価値<br>ウェイト | 生産        |           | 出荷        | 在庫        |
|---------|--------------|-----------|-----------|-----------|-----------|
|         |              | 1~3<br>月期 | 4~6<br>月期 | 4~6<br>月期 | 4~6<br>月期 |
| 輸送機械    | 15.2         | 19.5      | 3.5       | 5.8       | 0.9       |
| 化学      | 13.4         | ▲ 3.5     | —         | —         | —         |
| 一般機械    | 13.2         | 22.5      | 16.1      | 15.7      | ▲ 3.1     |
| 電気機械    | 7.8          | 11.5      | ▲ 1.4     | ▲ 3.0     | ▲ 3.6     |
| 食料品・たばこ | 7.1          | 3.3       | —         | —         | —         |
| 鉱工業     | 100.0        | 7.0       | 1.6       | 2.1       | 1.2       |

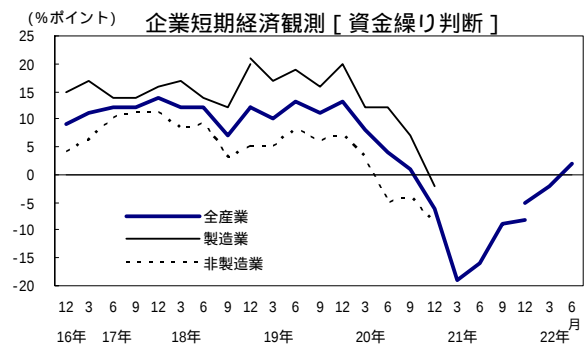
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

2. 4~6月期は速報値。化学、食料品・たばこは、速報値では公表されていない。

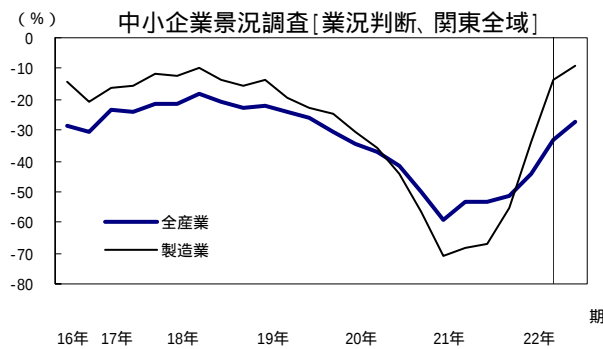
(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「楽である」超に転じている。  
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。22年9月は予測。  
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。  
関東全域(新潟県を含む)。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。  
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。  
日本銀行横浜支店管内。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。22年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(5月)[企業動向関連(現状)]

「売上単価を下げてくれと取引先から要請があるが、仕入価格は値上げ要請があり、中小企業の利益が確保できなくなっている(精密機械器具製造業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

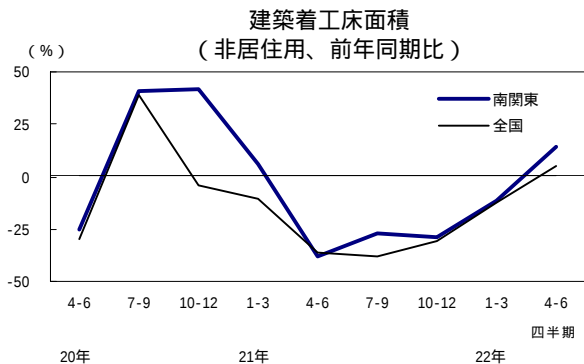
(3) 22年度の設備投資は前年度を下回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(6月調査)]

|      | (前年度比、%)    |             |
|------|-------------|-------------|
|      | 21年度実績      | 22年度計画      |
| 全産業  | ▲33.9(0.4)  | ▲3.9(▲6.8)  |
| 製造業  | ▲39.6(▲1.7) | 1.5(▲7.1)   |
| 非製造業 | ▲21.2(4.3)  | ▲13.1(▲6.1) |

(備考)( )は前回(3月)調査比修正率。

調査対象は神奈川県。



#### (4) 南関東

### 2. 需要の動向

#### (1) 個人消費は持ち直している。

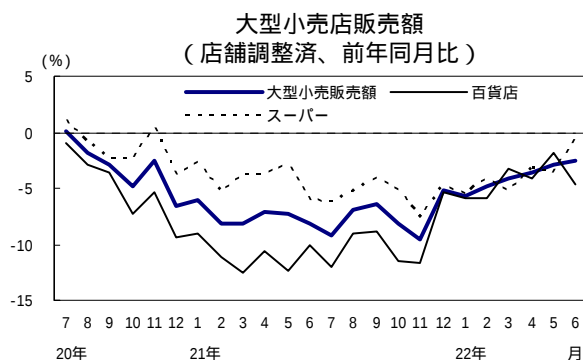
##### 大型小売店販売額

百貨店は、4月は、飲食料品で洋菓子類やゴールデンウィークの帰省土産が好調だったものの、低温多雨によりブラウス、カットソー等が振るわず衣料品が低調だったことから、前年を下回った。5月は、帰省客や観光客を対象にした菓子類や宝飾品、高級時計の需要が好調だったことから、前年比の減少幅が縮小した。6月は、婦人服のジャケットや子ども服が低調だったことから、前年比の減少幅が拡大した。なお、日本百貨店協会によると、東京地区の7月の売上高は前年同月比1.7%減となっている。

スーパーは、衣料品で夏物衣料や飲食料品でワールドカップの巣ごもり需要があったことから、前年同期比の減少幅は縮小した。

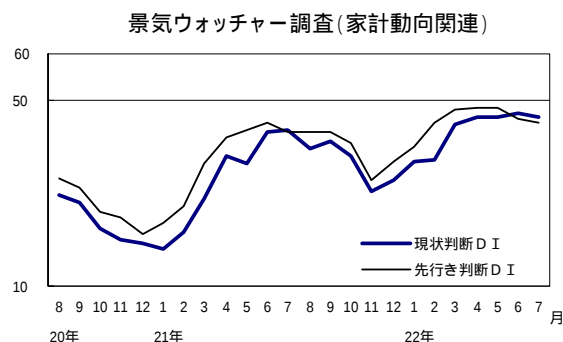
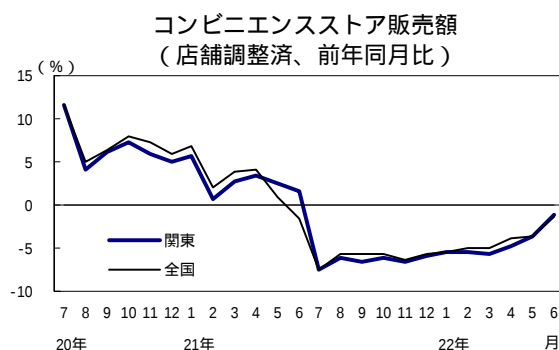
##### 景気ウォッチャー調査(7月)[家計動向関連(現状)]

「暑さもあり、エアコンが売れている。エコポイント制度から冷蔵庫も動いている。テレビは小型に売れ筋が変わり、2台目3台目の客や、1人暮らしの高齢者が購入しているようである(一般小売店[家電])」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



|          | (前年同期比、%) |        |         |      |
|----------|-----------|--------|---------|------|
|          | 21年7-9月   | 10-12月 | 22年1-3月 | 4-6月 |
| 大型小売店    | ▲7.6      | ▲7.5   | ▲5.0    | ▲3.0 |
| 百貨店      | ▲10.3     | ▲9.2   | ▲4.9    | ▲3.6 |
| スーパー     | ▲5.3      | ▲5.8   | ▲5.0    | ▲2.5 |
| 乗用車      | ▲1.6      | 16.1   | 24.4    | 19.3 |
| 景気ウォッチャー | 41.4      | 33.8   | 39.6    | 46.8 |

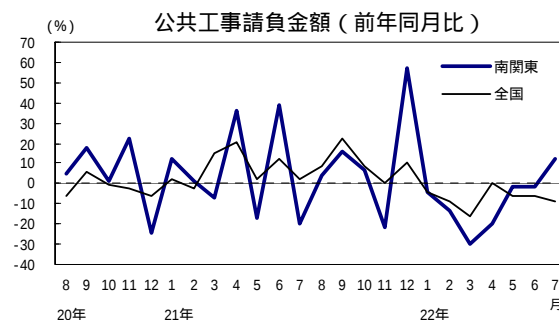
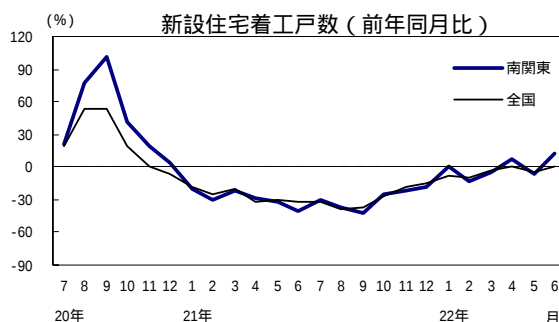
(備考) 1. 大型小売店は店舗調整済。22年4-6月期は速報値。  
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断DIの3か月平均。  
3. 乗用車は乗用車新規登録・届出台数。



#### (2) 住宅建設は増加している。

持家、分譲が前年を上回ったことから、全体でも増加している。

#### (3) 公共投資は22年度累計でみると前年度とほぼ同水準となっている。

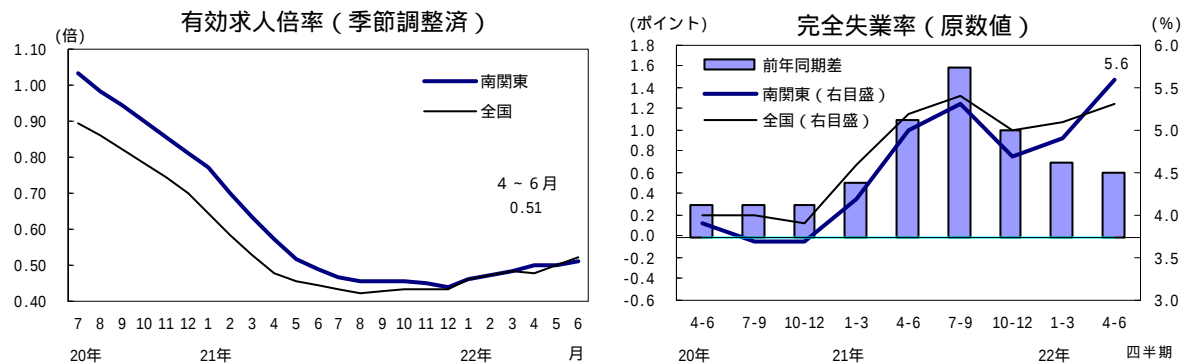


### 3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は厳しい状況にあるものの、下げ止まりつつある。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を上回っている。



景気ウォッチャー調査（7月）[雇用関連（現状）]

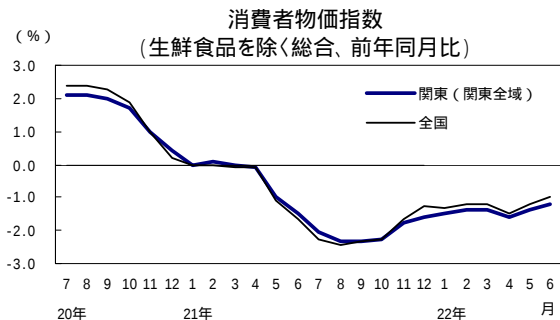
「受注量の増加から休業規模を縮小する事業所、一時的に休業を実施しない事業所がみられるようになってきたものの、雇用調整助成金の申請が相変わらず多い。製造業のうち零細な事業所が中心となり、利用件数は横ばいの状況が続いている（職業安定所）」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数は前年比の下落幅がおおむね横ばいとなっている。

企業倒産

|       | (件、億円、%) |        |         |       |       |
|-------|----------|--------|---------|-------|-------|
|       | 21年7-9月  | 10-12月 | 22年1-3月 | 4-6月  | 22年7月 |
| 倒産件数  | 1,263    | 1,040  | 1,161   | 1,118 | 350   |
| (前年比) | 4.3      | ▲14.2  | ▲12.1   | ▲10.5 | ▲26.5 |
| 負債総額  | 3,904    | 2,945  | 28,258  | 4,567 | 1,001 |
| (前年比) | ▲93.1    | ▲76.1  | 49.2    | ▲30.3 | ▲38.0 |



○ 景気ウォッチャー調査（7月）[合計（特徴的な判断理由）]

<現状>

・新築の賃料が下がったため、古い物件が苦戦している。築25年以上の空き物件が増えている。駅から4分、2LDKで駐車場付き、追いだき付きの風呂の物件が85,000円でなかなか契約に至らず、苦戦している（不動産業）。

<先行き>

・補助金効果が無くなり、再び買い控えになる。エコカー減税だけの効果では、ユーザーのお得感は薄いようである（乗用車販売店）。

